

【ニューストピックス】

イギリス本国の紙幣に見る
エリザベス2世の変遷

【ヨーロッパ】

英国(グレートブリテン及び
北アイルランド連合王国)

EU(ヨーロッパ連合)

アイスランド

ウクライナ

スイス連邦

スウェーデン王国

チェコ共和国

デンマーク王国

ノルウェー王国

ハンガリー

ベラルーシ共和国

ポーランド共和国

ボスニア・ヘルツェゴビナ

モルドバ共和国

ルーマニア

ロシア連邦

【中東】

アフガニスタン・イスラム共和国

アラブ首長国連邦(UAE)

イエメン共和国

イスラエル国

イラク共和国

サウジアラビア王国

トルコ共和国

バーレーン王国





英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)

約1000年続くイングランド王室、世界史に大きな影響を与えた国

新国王の肖像画が紙幣に！

2024年6月、

新50ポンド

オモテ



「チャールズ3世」は、エリザベス2世の長男で、エリザベス2世が亡くなったため、2022年9月8日に即位。2024年6月から新国王の肖像画にさしかえられた。肖像画以外は前のデザインと同じ。

ウラ



数学者・計算機科学者の「アラン・チューリング」は、コンピュータ科学の研究を行い、現代のコンピュータの基礎をつくった。

新5ポンド

オモテ



ウラ



第二次世界大戦期の首相「ウィンストン・チャーチル」は、ナチス・ドイツとの戦いを指揮し、イギリスを守るために兵士たちをまとめ上げた。

新20ポンド

ロマン主義時代の風景画家「ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー」の肖像。彼の作品は明るい色合いや繊細な光の描き方から生み出される幻想的な雰囲気特徴的。



ウラ

新10ポンド

19世紀のイギリスを代表する小説家「ジェーン・オースティン」の肖像。代表作の「高慢と偏見」「説得」は今もなお世界中で読まれている。



ウラ

✓ デザインは変わらない
新国王チャールズ3世の新紙幣

2024年6月5日にイギリスの新しい紙幣が発行されました。5ポンド、10ポンド、20ポンド、50ポンドの各紙幣で、そこにはチャールズ3世の肖像が描かれています。現在流通しているエリザベス2世の紙幣も、引き続き使えます。新紙幣は肖像以外に変更はありません。ポリマーというプラスチック素材でつくられ、紙よりも丈夫で、汚れにくいのが特徴です。偽造防止には、紙幣を左右にかたむけると異なる模様や色が見えるホログラム技術や、透明な素材を活かして、紙幣の向こう側がすけて見える「シースルーウインドウ」が採用されています。

どんな国？

- 首都 ロンドン
- 面積 24万3,000km²
- 人口 約6,760万人
- 言語 英語(ウェールズ語、ゲール語など使用地域あり)
- 産業 製造業、ガス業、金融業
- 通貨単位 ポンド、ペンス
- 紙幣4種類 5・10・20・50ポンド
- 硬貨8種類 1・2・5・10・20・50ペンス、1・2ポンド



トルコ共和国

アジアとヨーロッパの間に位置する親日国



バーレーン王国

ペルシャ湾に浮かぶ島国で中東経済の要

すべてのトルコ・リラ紙幣の

「顔」は初代大統領

100トルコ・リラ

オモテ



初代大統領「ムスタファ・ケマル・アタテュルク」。ラテンアルファベットを国の言語に取り入れ、一夫多妻制度を禁止し、女性が直接政治に参加できるようにするなど、多くの改革を行う。トルコの近代化を進めた国民的英雄。トルコの国父。

5トルコ・リラ

オモテ



初代大統領「ムスタファ・ケマル・アタテュルク」。



左に「太陽系」、中央に「DNA」と科学史学者「アイトゥン・サクル」の肖像が描かれている。彼は宇宙やDNAの研究を行い、トルコの科学史で名前を残した人物。



ウラ

音楽家「ブフリザデ・ウトリ」と「民族楽器」が描かれている。彼はトルコ共和国の前身、オスマン帝国時代の有名な作曲家で、トルコの古典音楽の代表的な存在である。

どんな国？

- 首都 アンカラ
- 面積 約78万1,000km²
- 人口 約8,537万人
- 言語 トルコ語
- 産業 サービス業、製造業、農業
- 通貨単位 トルコ・リラ、クルシュ
- 紙幣6種類 5・10・20・50・100・200トルコ・リラ
- 硬貨6種類 1・5・10・25・50クルシュ、1トルコ・リラ (1・5クルシュはほとんど流通していない)

中北部の都市リファに残る「城塞」と、19世紀に建てられたバーレーンの伝統的な建築様式「シェイク・イーサの館」が描かれている。この家にある美しい中庭と塔が有名。

5バーレーン・ディナール

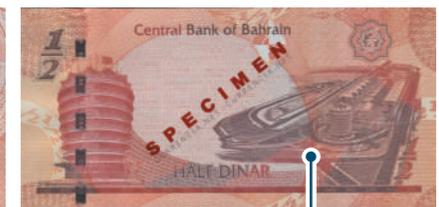
オモテ



アルミニウムを製造する企業アルミニウム・バーレーンの「精錬所」と国内最初の原油を採掘するために使われた「井戸」が描かれている。石油精製とアルミニウム製造は、国の重要な産業になっている。

1/2バーレーン・ディナール

オモテ



2004年に開設した「バーレーン国際サーキット」。流線型のユニークな形状と近代的な設備が印象的。F1グランプリなど多くのモータースポーツイベントが行われている。

1960年代に建設された「旧バーレーン裁判所」。アラビア建築の要素を取り入れたデザインで、白い外壁やアーチ型の窓が特徴。バーレーンの司法制度の重要なシンボル。



「真珠の島」から産油国へ、近代化のカギは油田にあり

バーレーンは、ペルシャ湾に浮かぶ33もの島々からなる自然豊かな島国です。古代アッシリア時代から有力な貿易中継地として栄え、15世紀までには真珠の名産地としても知られました。真珠採りの男性たちが家族と長期離れて働く悲しみを歌った「フィジェリ」という伝統音楽は、その歴史を伝えています。1932年にはアラビア湾岸諸国で初めて石油の採掘に成功し、国の近代化が急速に進みました。しかし、バーレーンの経済は石油産業に頼っており、石油が採れなくなると収入がなくなってしまうため、アルミニウム製造など石油生産以外の産業にも力を入れています。

どんな国？

- 首都 マナーマ市
- 面積 786.5km²
- 人口 約157万7,000人
- 言語 アラビア語
- 産業 石油産業、製造業、金融業
- 通貨単位 バーレーン・ディナール、フィルス
- 紙幣5種類 1/2・1・5・10・20バーレーン・ディナール
- 硬貨6種類 5・10・25・50・100・500フィルス

人物ではなく、

歴史と経済発展を伝える建造物